

平成30年度第5回きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会（西牟婁会場）

1. 日 時 平成30年10月25日（木） 13：30～16：00
2. 場 所 和歌山県立情報交流センターBig・U
3. 参加者 教職員・市町村教育委員会職員・学校運営協議会委員 等
合計 67名
4. 内 容

◆ 講演

「コミスクでつながる。すべての始まりは対話から。」

文部科学省CSマイスター

徳島県東みよし町立 三加茂中学校 事務室長 赤松 梨江子 氏

- 幼小中教職員合同研修会の実施
 - ・ 始まって3～4年の取組
 - ・ ホワイトボードを活用した話し合い
 - ・ 学校運営協議会はともに悩み考える場



- 学校支援隊の活動
 - ・ 500名の目標は達成。現在530名
 - ・ 学校支援隊ハンドブックの作成
 - ・ ゲストティーチャーに言いにくい要望は、事務職員でもあるコーディネーターがフォローする
 - ・ 生徒は支えられるだけでなく、地域の一員として清掃活動に参加

- コミュニティ・スクールであることの意義
 - ・ 先生でない大人が子どもを認める
 - ・ 地域の人が先生の頑張りを知る
 - ・ 教職員が地域の人を知る
 - ・ 学校だけではできない出会いの創出

- コミュニティ・スクールのこれから
 - ・ 周りにいる人とどうつながるか
 - ・ 学校と地域の双方に、コーディネーターの存在
 - ・ 世代交代をしながら、人が代わっても続く仕組みづくり
 - ・ うまくいっていないのは、必要な誰かと誰かが話ができないから
すべての始まりは、対話から

◆ 事例発表

「ここがポイント。熊高の運営協議会。」

和歌山県立熊野高等学校 校長 鈴木 孝夫 氏

熊野高校は、和歌山県上富田町に位置し、総合学科と看護科を有している。熊野高校学校運営協議会の前身である、「熊高教育協議会」が、平成14年に設立した経緯や背景、地域の方や地元企業の方との本音と本気の話し合いについて、説明いただいた。

本気の話し合いを何度も重ねることによって、教師が変わり、生徒が変わり、学校が変わってきた経緯を紹介いただいた。

参加者にとっては、これからの運営協議会の進め方について、大きな示唆をいただくことになった。

◆グループ協議

「印象に残ったキーワード。伝えたいキーワード。」

【赤松 梨江子 氏の講演から印象に残ったキーワード】

- ・ダメ会議ベスト10
- ・紙よりもホワイトボード
- ・地域力を信じる
- ・学校と地域のあたたかい関係
- ・ともに悩み考える場
- ・何をして欲しいか声に出す
- ・経験しておくことが役に立つ
- ・この地域の子供たちの育ちを考える場
- ・元気に登校、楽しい学校生活、笑顔で下校
- ・コミスクでつながる
- ・すべては対話から始まる



【鈴木 孝夫 氏の事例発表から印象に残ったキーワード】

- ・地域とともに歩む学校 地域に出る学校
- ・すべての始まりは必然性
- ・本音の議論
- ・清掃活動だけでなく 町の人との会話
- ・先生が変われば 生徒も変わる 生徒が変われば 地域も変わる
- ・コミスクの可能性
- ・地域の声の影響
- ・小さな日常の行動を大事にする
- ・自分自身が変わる（成長する）ことで まわりを変えていく
- ・危機感が学校を変えた 危機感が地域の協力を引き出した
- ・良くなれば良くなるほど 課題も増え その質も高くなる

5. 参加者の声（アンケートより）

- ・事務職員の方が、コミュニティスクールのコーディネーターとして学校運営にも深く関わっていらっしゃることに驚くとともに、素晴らしいことだなあと感じました。（小中学校教員）
- ・本当にみんなが悩むことのできる場。そういう場の大切さを考えさせてくれました。（学校運営協議会委員）
- ・「必然性」があれば、CSは成功するという言葉が印象的でした。自分の学校にとっての「必然性」をしっかりとアピールしていきたいと思います。（小中学校教員）
- ・ダメ会議、よく分かります。自分たちも対話できる実のある会議を目指します。（社会教育関係者）
- ・「すべては始まりは対話から」という考え方に共感しました。先生ではない大人が子どもを認め、地域で子どもの育ちを考えていくことの大切さを改めて感じました。（小中学校教員）
- ・本日の研修会で、自分の町で進めていることで「まちがいなし」と確信しました。（市町村教育委員会関係者）